

【南九州税理士会会長賞】

未来へのバトン

南九州市立穎娃中学校

三年 下窪 茉莉

早朝四時。父が出勤するエンジン音で薄っすらと目覚める。「今年も収穫の時期が来たか。」と他人事のように感じながら再びまどろむ。毎年変わらず、やってくるお茶の収穫期。中学三年生となった私は、父がどのような思いで仕事に向き合っているのかも知らず、生活していた。

ある日、学校の授業で租税について学習する機会があった。今まで意識してこなかったが税金によって支えられている日常。毎日、安全に通える学校、きれいに整備された道路や公園、消防や警察といった公共サービス。豊かな生活は「誰もが払った税金」で成り立っていると知り、驚いた。授業を受けた帰路ふと父の働く姿が頭に浮かんだ。私の父は、お茶農家でもあり、製茶工場も経営している。収穫時期の四月から五月は繁忙期、毎朝、暗いうちから畑に向かい、新芽の様子を丁寧に確認しながら収穫していく。その後は工場での製茶作業。重たいお茶の葉を運び、大きな機械を操作し、良質な茶葉へと仕上げていくどの工程も体力と神経を使う重労働だ。「飲む人に喜んでもらえるお茶を作りたい」という一心で一年を通して自然と向き合い、手を抜かずにお茶を育てている。しかし、お茶づくりは簡単なことばかりではない。霜や長雨といった天候の影響で新芽が傷ついてしまうこともある。工場で使う大型の機械は高額でありながら修理や買い替えが必要となった際は多額な費用がかかる。私の父が経営する製茶工場は、大型の機械や設備が多く、それらには固定資産税が課せられる。固定資産税は、土地や建物、機械設備など資産を所有していることに対して課せられる税金だ。お茶づくりに欠かせない機械を持つことで、父は毎年、税金を支払わなければならない。その他にも、個人事業税など経営する上で納税の義務がある。これらの税金を負担するのは容易なことではないが、そのおかげで私たちの生活は豊かになり、社会全体の安全が保たれているのだ。父は、そうした現実にも正面から向き合い、誰かの役に立つことを喜びとして働いている。そのような父の姿を見て、誇らしい気持ちを抱いた。それと同時に、これまで何となく過ごしていた毎日がたくさんの人の努力や税金によって成り立っていることに気づいたとき、自分の見ている世界が変わった。

将来、私も社会の一員として働くようになったとき、納税することの意味や大切さを理解し、次の世代へバトンをつなぎたい。いつか、父のように安心した社会を築けるように。